

## 横須賀市の人口について

## 1. 人口の推移

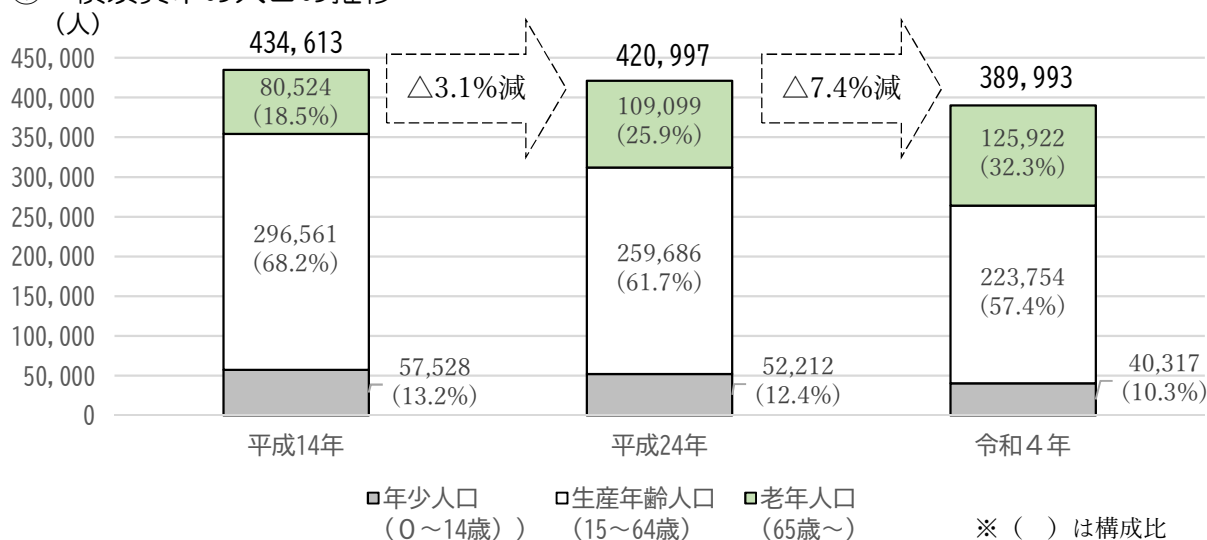
(1) 総人口は減少傾向にあり、近年ではより急激に減少しています。

本市の人口は平成5年度がピークでした。(439,280人)

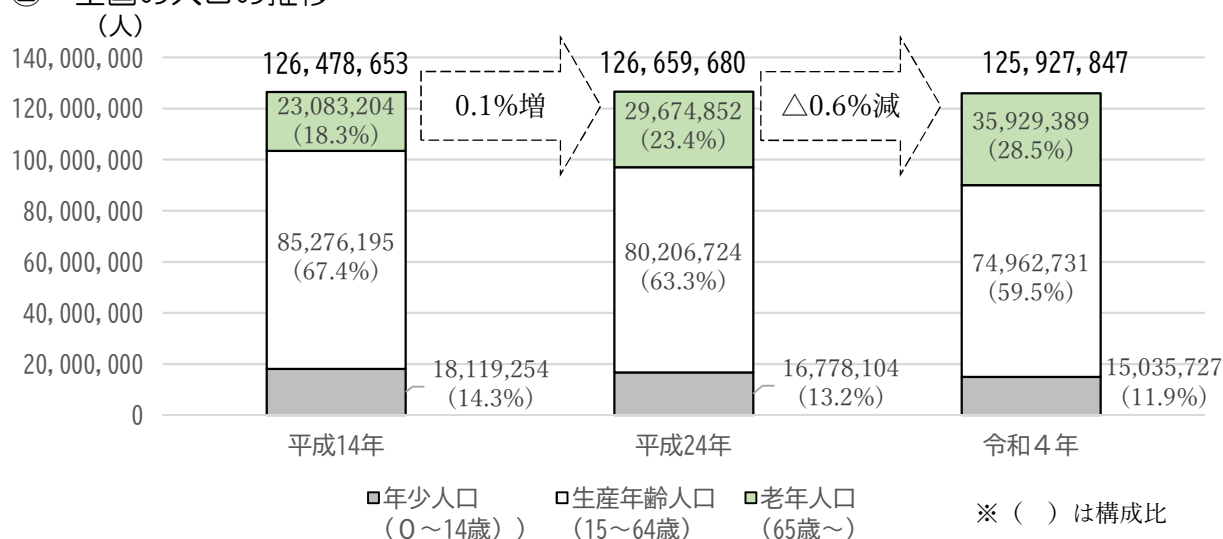
(2) 年少人口、生産年齢人口が減少し、老年人口は増加しています。

⇒ **全国的な少子高齢化を伴う人口減少の進展**

## ① 横須賀市の人口の推移



## ② 全国の人口の推移

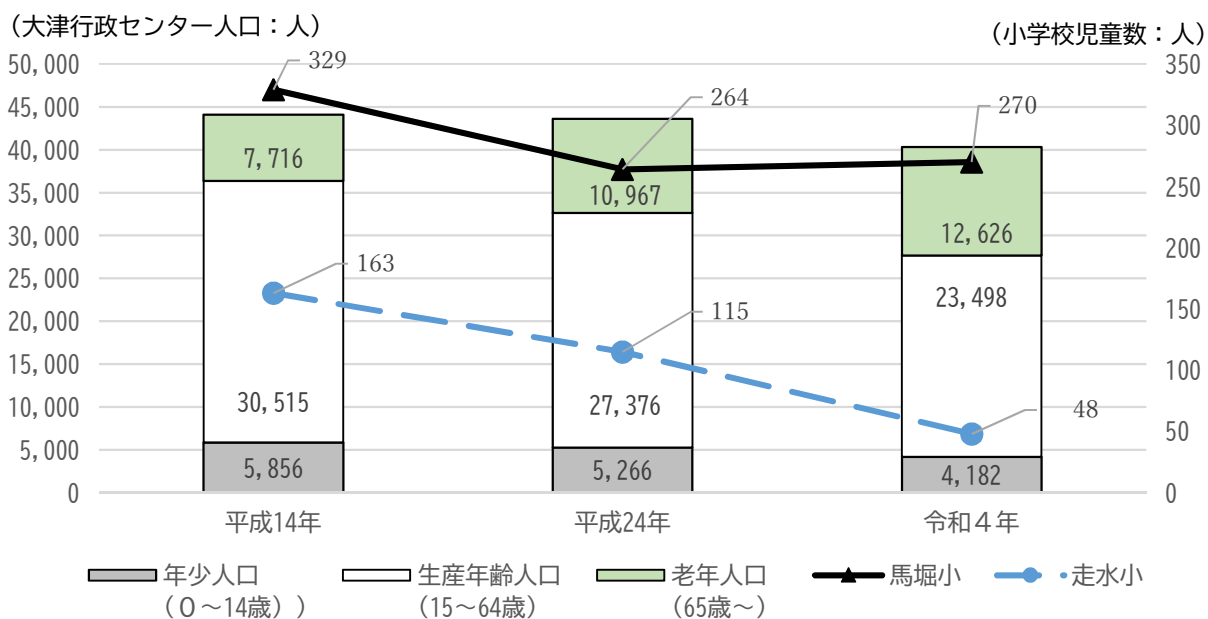


## 2. 大津行政センター管内の人口と馬堀小、走水小の児童数の推移

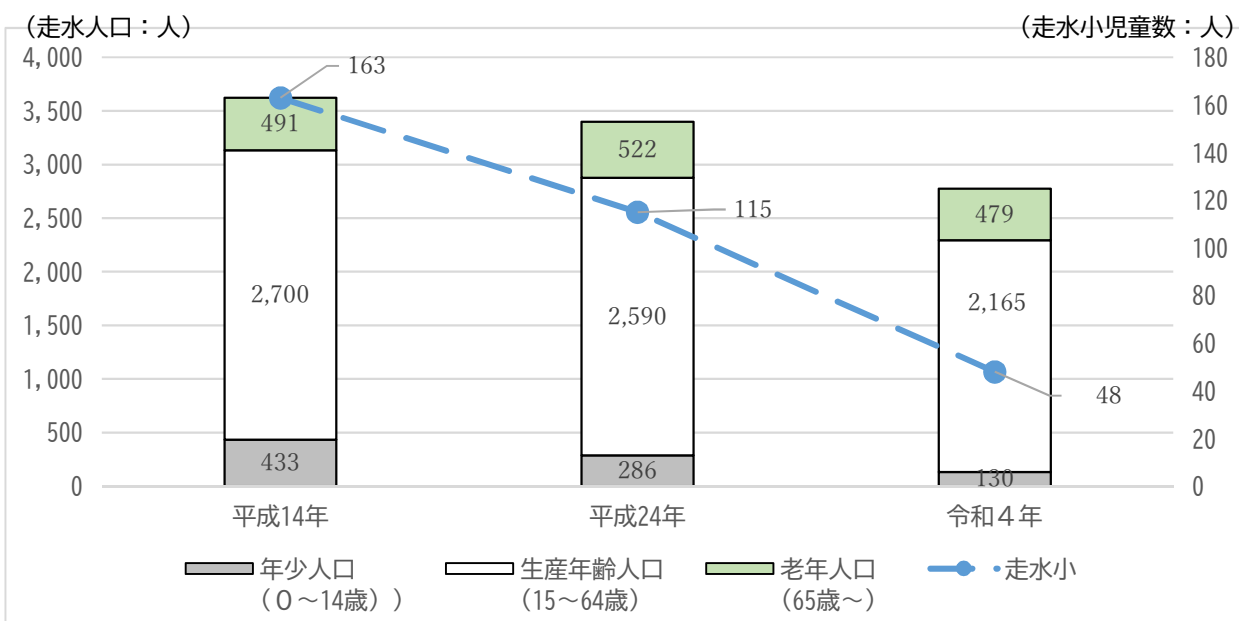
(1) 全市的な推移同様、大津行政センター管内においても少子高齢化を伴う人口減少が進展しています。

(2) 少子化に伴って、馬堀小、走水小の児童数が減少しています。

### ① 大津行政センターの人口と馬堀小、走水小の児童数の推移



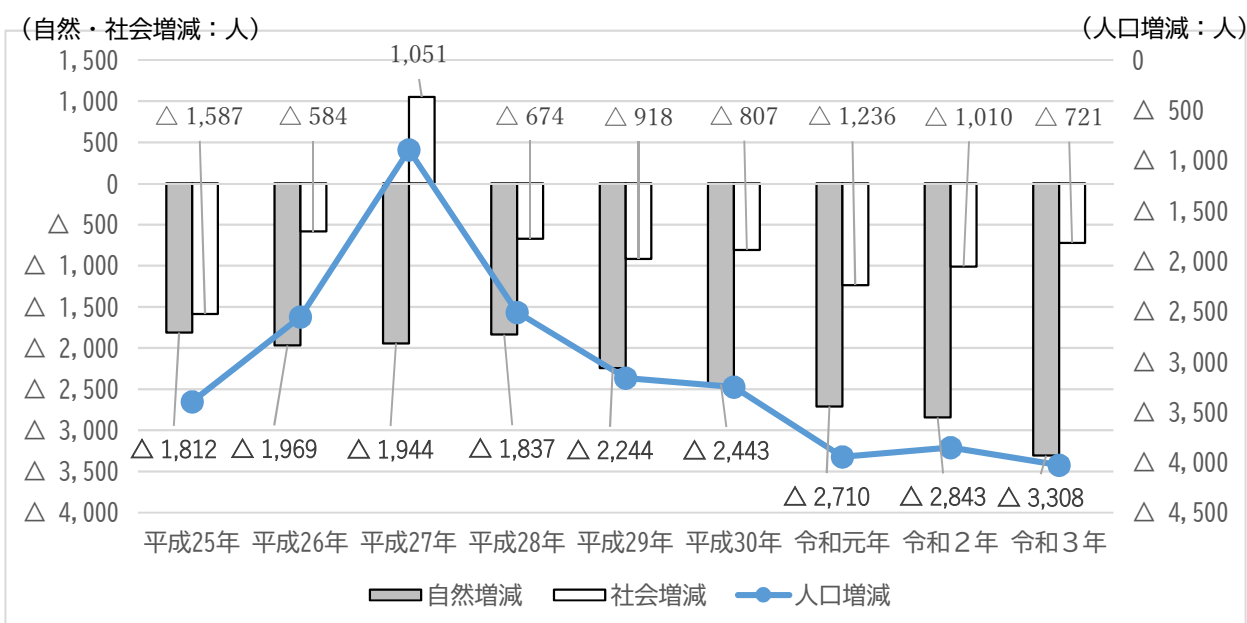
### ② 走水の推移



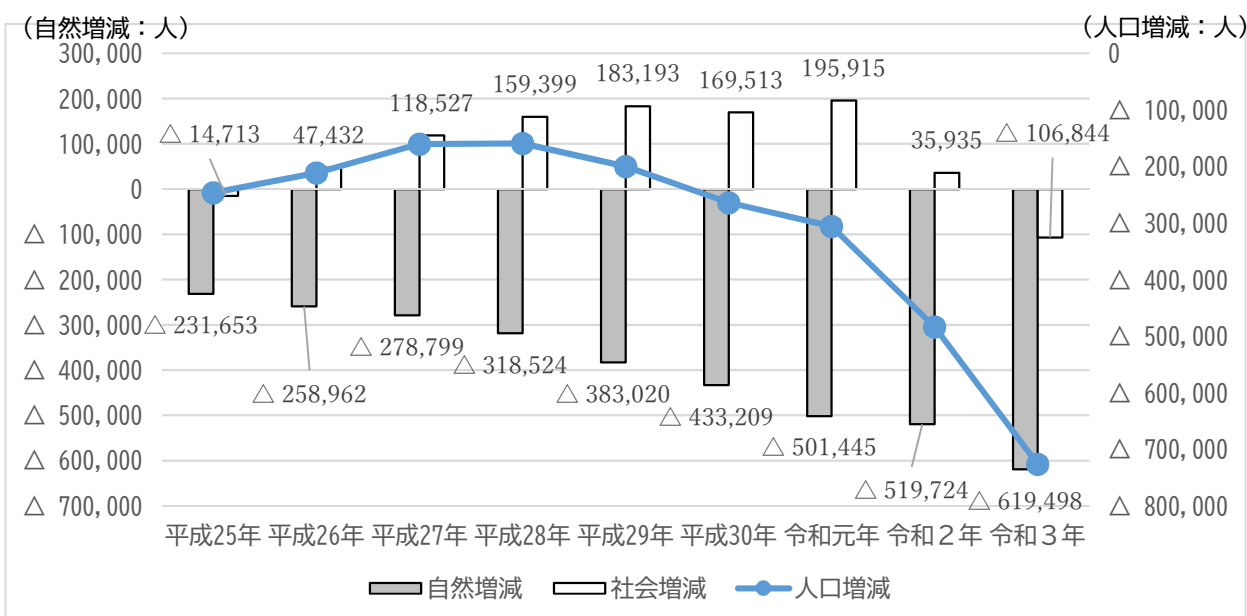
### 3. 人口減少の特徴

- (1) 人口の変動（増減）には出生数と死亡数の差による「自然増減」と、転入数と転出数の差による「社会増減」の2つの側面から表すことができます。
- (2) 本市においては、人口減少に対し「自然減」が大きなウェイトを占めています。  
また、国の状況も同様です。

#### ① 自然増減、社会増減の推移（横須賀市）



#### ② 自然増減、社会増減の推移（全国）



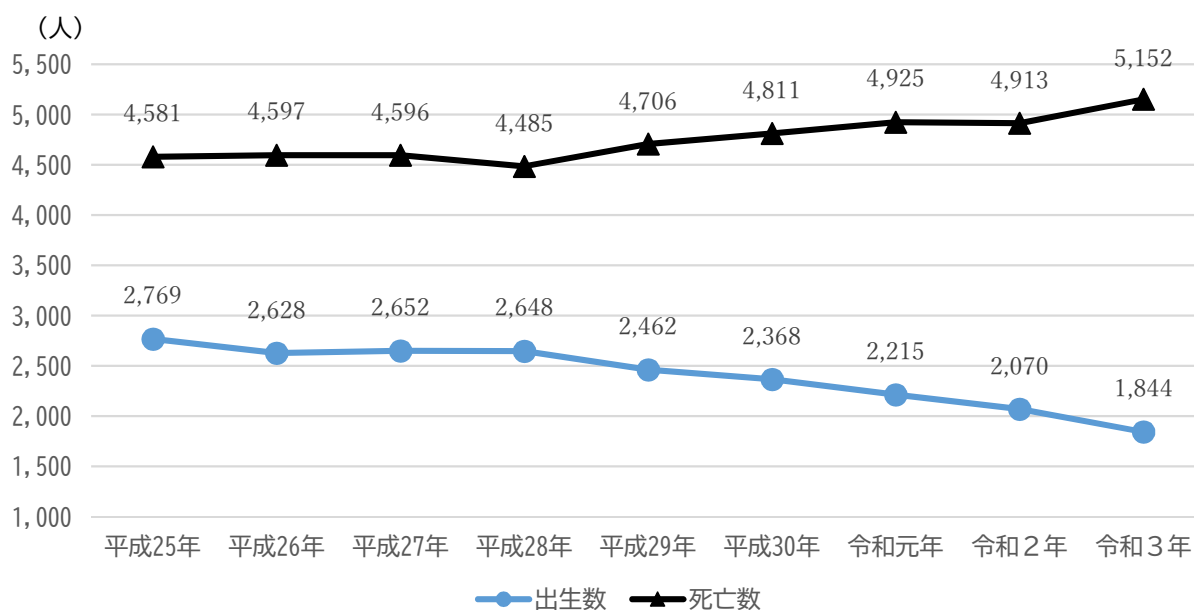
#### 4. 自然減の内訳（出生数、死亡数減）

（１）死亡数は増加、出生数は減少し、出生数を死亡数が大きく上回っています。

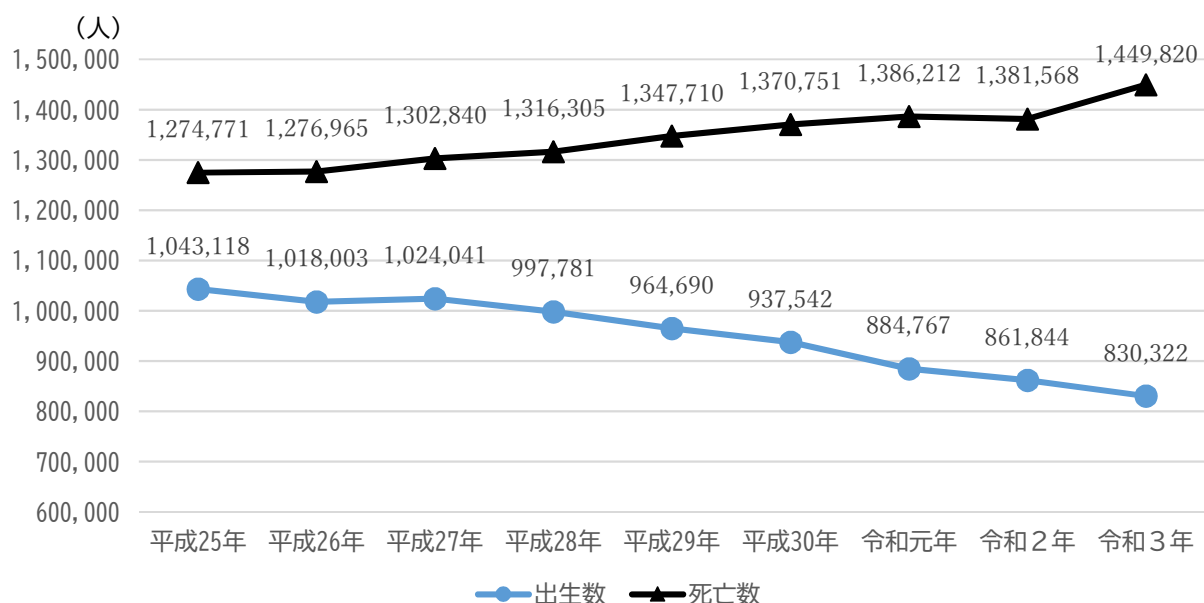
（２）横須賀市は平成15年まで、国は平成18年まで出生数が死亡数を上回っていましたが、現在は逆転しています。

- ・横須賀市：平成15年 出生数3,714人、死亡数3,708人
- ・国：平成18年 出生数1,091,917人、死亡数1,081,174人

##### ① 出生数、死亡数の推移（横須賀市）



##### ② 出生数、死亡数の推移（全国）

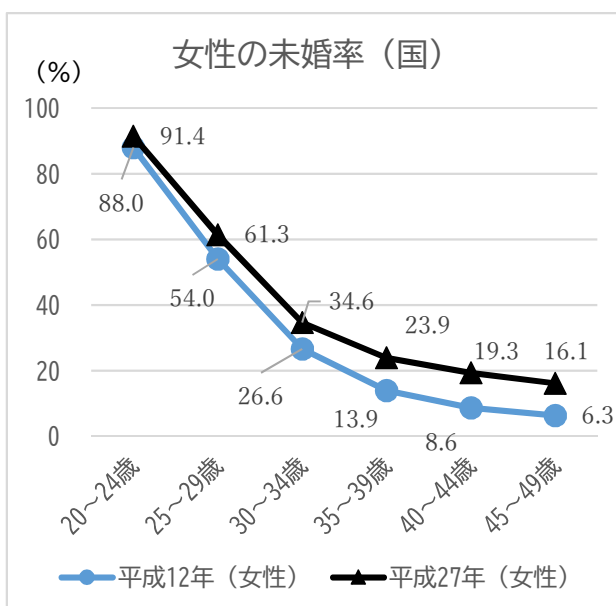
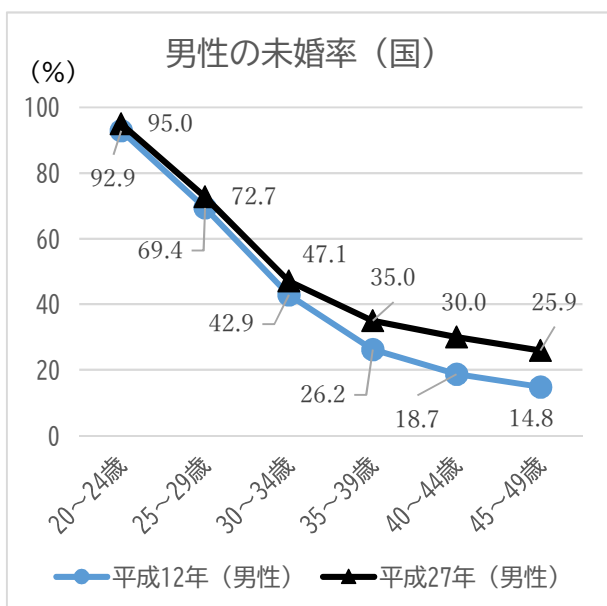
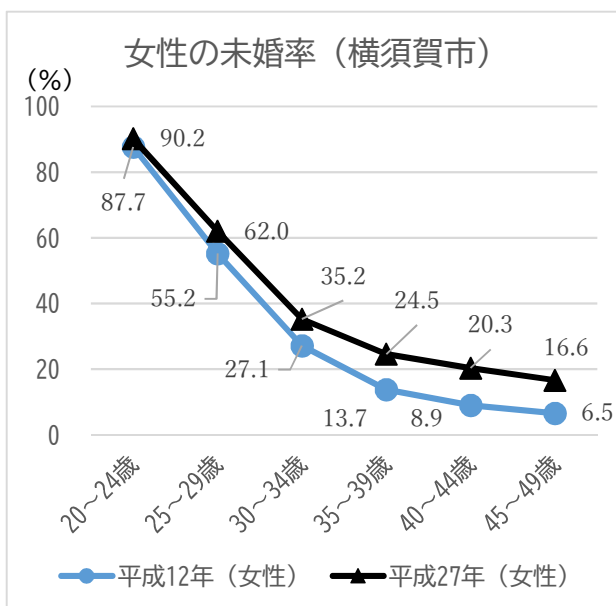
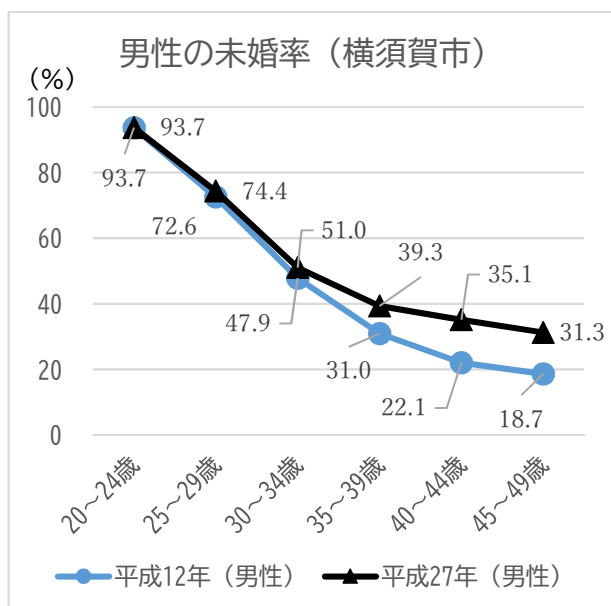


## 5. 出生数減として考えられる要因

### (1) 婚姻に関すること

- ① 男女ともに未婚率が上昇しています。
- ② 女性の未婚率は男性より低いものの、約15年間で男性は約67%増加しているのに対し、女性では約155%増加しています。  
 ・横須賀市 男性18.7% → 31.3%      女性6.5%→16.6%

### (ア) 未婚率の推移



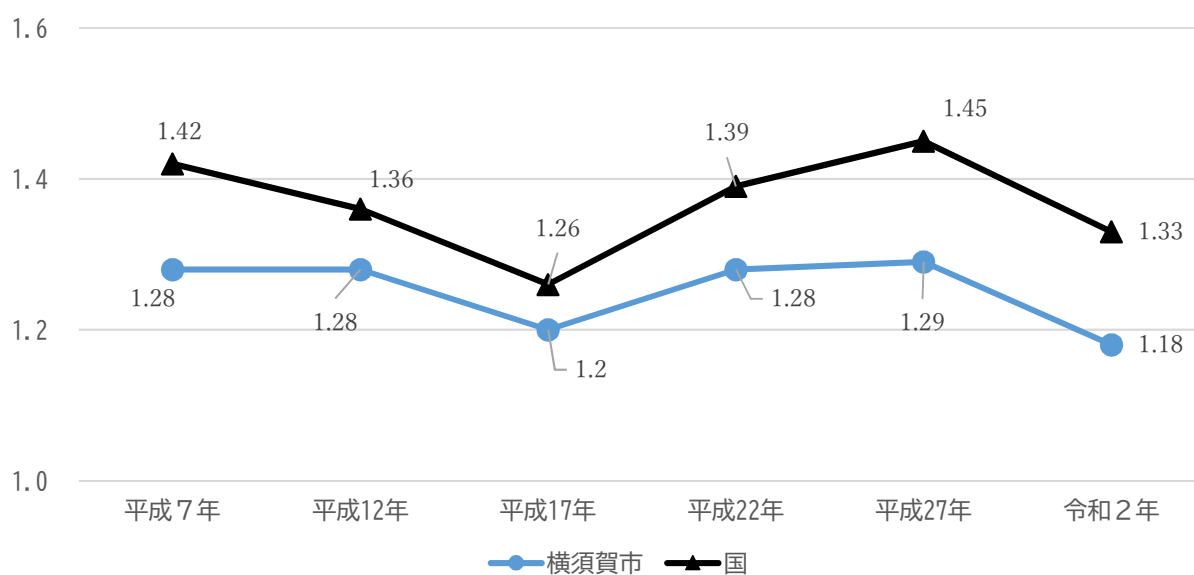
## (2) 出生率（合計特殊出生率）に関すること

### ・合計特殊出生率

その年次の15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数に相当します。

国の合計特殊出生率では、昭和40年代までは2.0を超えていましたが、昭和50年代には2.0を下回り、現在に至っています。

### (ア) 合計特殊出生率の推移（国、横須賀市）



## 6. まとめ

### (1) 人口の増減について

- ① 人口減少の特徴として自然減が大きく影響しています。
- ② 高齢化の状況から、今後も死亡数は増加すると見込まれます。  
人口減少及び出生率の低下から、今後も出生数の減少が見込まれます。
- ③ 定住促進策の推進は必要ではあるものの、社会増（転入）が劇的に増加しても、全国的に人口が減少している状況では、一過性である可能性が高いと見込まれます。

### (2) 横須賀市F M戦略プランについて

令和元年度に横須賀市の公共施設の更新・再編に関する計画（横須賀市F M戦略プラン）を策定しましたが、この計画の中でも、少子高齢化を伴う人口減少の進展、市税収入の減少、社会保障費の増加などが見込まれる中で、今後も同じ規模・機能の施設を維持していくことは困難であると考えています。

### (3) 横須賀市教育環境整備計画について

- ① (1) のような少子化が今後も見込まれる中では、各学校が小規模化することは避けられません。
- ② 学校教育においては、ある程度の規模が必要であり適正規模の範囲を小中学校ともに12学級から24学級としています。
- ③ 学校規模や通学区域の是正が必要な場合は、まず通学区域の見直しを検討しますが、それでも課題が解消されない場合には、隣接校との統合を検討します。